

新型コロナウイルス感染症対策研修会「茨戸アカシアハイツから学ぶ」

8月3日(月)13:30～15:30 ラ・カンパーニュホテル深川

- ・目的 北空知の社会福祉施設における感染者をゼロまたは最小限に抑えるため、保健・医療・介護・福祉関係者等に対し、経験を踏まえた実践的な感染拡大防止のための情報提供を行い、感染者発生時における対応について研修の機会とする。
- ・内容 (1)講演「施設における新型コロナウイルス感染予防について～茨戸アカシアハイツから学ぶ～」
・講師 社会福祉法人札幌恵友会 危機管理対策本部副本部長 渡邊一史さん
(2)質疑応答
- ・参加者 73名 (保健・医療・介護・福祉関係者)



福祉施設でクラスターが発生したら、感染の制御は困難
クラスターを起こさないことが重要
今回の茨戸アカシアハイツで改めて分かったこと
(平時の備え)(初動対応)



主催:深川市 社会福祉法人揺籃会
共催:北空知地域医療介護確保推進協議会
後援:深川保健所 深川医師会

- ・講師の渡邊さんから、茨戸アカシアハイツにおけるクラスター発生、終息までの実体験をもとに、実践的な感染拡大防止対策、感染発生時の対応について講演いただきました。
- ・初動で混乱した。きちんとできていれば遮断できたのではないかと考えている。
- ・いろいろな機関、団体から支援を受けたが、最初は支援内容が重なり、横の調整が取れなかった。
- ・国からDMATが入り、整理してくれ、施設内に市の現地対策本部が置かれ、機能していった。現地対策本部は、アカシアを教訓にその後の病院・施設のクラスターでも設置されている。
- ・法人、施設は紙媒体が主流、市の支援で情報がデータベース化され共有されるようになった。
- ・平時の準備が必要、日ごろから話し合っておくことが必要である。
- ・一事業所、一法人だけでは対応できない。行政や関係機関、地域の事業所との連携体制をつくるのが重要である。
- ・職員、支援者の宿泊所の確保が大変であった。必ず必要になる。
- ・物資の備蓄、ないものが多かった。使ってみないと分からないものがある。マスクなど個人差ある。中国製で基準を満たしていないマスクの提供があった。
- ・PPE装着しての作業は大変であるが、装着後は感染者を出していない。法人内の感染委員会で装着の研修を行い、正しい装着、着脱を広めている。

(質疑応答から)

- ・アカシア関係者は、保育所、学校に来ないでくれと言われ、職場に来られなかった職員がいたが、札幌市が対応してくれた。
- ・心のケアは、市の保健師(こころのセンター)が対応してくれた。
- ・アカシアの経験は札幌の対策に活かされている。介護課でチェックリストを作成し、施設を巡回指導している。
- ・法人で対応をマニュアル化していきたい。作成できたら提供したい。自分としても法人としてもいろいろ教訓として伝えたい。
- ・特養に勤務しているが、病院と比べて感染予防の知識、対応が甘い。施設内でインフルエンザが流行し大変だったが、アカシアはその比でなく大変だったと思う。
- ・施設は病院と異なり面会禁止の対応について、利用者家族になかなか理解が得られない。
- ・施設でも面会禁止、制限するのは簡単であるが、正しい知識があれば対応できることもあるので、利用者のためにできることも考えたい。
- ・手指消毒や手洗いなどを予防対策きちんとやっているか、管理職がチェックし徹底している。省略、不十分な場合が出てくる。